

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日 時 令和4年2月19日（土） 午後2時～午後3時30分
- 場 所 倉吉未来中心 倉吉市駄経寺町
オンライン開催
- 出席者 22人
渡辺健対協会長、孝田委員長
芦田・岡田・岡野・陶山・瀬川・谷口・前田和・前田直・松田・満田・三好・
山下・萬井各委員
オブザーバー：永原鳥取大学医学部統合内科医学講座消化器・腎臓内科助教
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：小林室長、坂本課長補佐、坂本保健師
健対協事務局：谷口事務局長、岡本次長、梅村主事

【概要】

- ・ 令和2年度肝炎ウイルス検査受診者数は4,399人で、受診率は2.1%、HBs抗原陽性者は60人（陽性率1.4%）、HCV抗体陽性者は11人（陽性率0.3%）である。
- ・ 令和2年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんは発見されなかった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が1名であった。
- ・ 孝田委員長より、NBNC対策について報告及び研究の進め方について意見を伺った。特定健康診査・後期高齢者健診からの非ウイルス性肝疾患拾い上げを行うにあたり、検査項目に血小板がなく、FIB-4が計算できないことがあった。対策として、受診勧奨となった方へ事業説明書をお送りし、医療機関を受診された際に同意書の提出と検査を行うこととした。FIB-4の測定2.67以上に対して定期検査の受診勧奨。2021年度

日野郡・西伯郡での試験的検討を行った結果、対象者13,555人、特定健診受診者2,152人、生活習慣病受診勧奨者312人、FIB-4インデックス測定同意者60人だった。課題としては、健診受診率が低い、同意率が低い、高リスク患者が真に高リスクであるかの確定診断が必要、精査の基準を作るべきか、役場・保健師への負担が大きい、高リスク患者が次年度改善した場合も定期検査継続とするか、が挙げられる。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

新型コロナウイルスの影響により、今回はハイブリッド開催となった。感染状況は、減少傾向に見えるが、引き続き慎重な対応が必要となる。各種がんの対策について、支援や取り組みが成果をあげていると聞いている。引き続き様々な意見をいただきながら、進めていければと思う。

〈孝田対策専門委員長〉

今回はハイブリッド形式での開催となり協議しづらいかもしれないが、積極的にご意見をいただき、意義のある会としたいと思う。

報告事項

1. 令和2年度肝炎ウイルス検査実績報告並びに令和3年度事業実績見込み及び令和4年度実施計画について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

(1) 令和2年度肝炎ウイルス検査の結果について
令和2年度は19市町村で実施し、対象者数205,096人（令和元年度207,065人）のうち、受診者数は4,399人、受検率は2.1%で、受検者数は前

年度に引き続き減少傾向である。

検査の結果、HBs抗原陽性者は60人で陽性率0.3%（前年度1.4%）、HCV抗体陽性者は11人で陽性率0.3%（前年度0.1%）であった。

精検受診者は48人であり、精検受診率は67.6%で、前年度に比べ9.9ポイント増であった。精検の結果、肝臓がんは発見されなかった。

(2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成7年度から実施している、過去に検査で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は全市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定期検査結果（人・%）			
			慢性肝炎	肝硬変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	2,014	1,022	155 (15.2)	14 (1.4)	6 (0.6)	4 (0.4)
C型肝炎ウイルス陽性者	741	385	43 (11.2)	5 (1.3)	2 (0.5)	1 (0.3)

肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

(3) 令和3年度実施見込み及び令和4年度実施計画について

令和3年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は16市町村実施で4,168人、市町村単独事業は8町実施し930人の見込みである。

令和4年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス検査は16市町村実施で4,475人、市町村単独事業は8町実施で924人を計画している。

2. 令和2年度肝臓がん検診発見がん患者追跡調査結果について：孝田委員長

(1) 令和2年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がんは発見されなかった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌が4名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓癌

が1名であった。

(2) 平成7～令和元年度肝臓がん検診発見がん患者、また、平成10～令和元年度定期検査確定がん患者について予後調査を行った。関連死か他病死かを調べるため、死亡理由の記載をお願いしているが、徹底できていないので、ご協力をお願いしたいとの話があった。

3. 肝がん・重度肝硬変研究治療促進事業実績について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

令和3年4月1日から、一部要件が緩和された。令和3年度の新規認定件数は12名で、前年度より9名増加した。また、入院医療費の助成が31件、外来医療費の助成が16件あった。

4. 国の肝炎対策基本指針の改定について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

肝炎対策基本指針については、法律上5年ごとの見直しが定められており、肝炎対策推進協議会において、改定に向けた議論を進められ、2月下旬をめぐって告示される予定。なお、鳥取県肝炎対策推進計画（平成30年4月）は、令和5年度までの6か年計画となっており、令和5年度中に見直し予定である。

5. その他

（1）令和4年度肝炎・肝がん関連事業の概要について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室保健師

- 肝炎のウイルス検査の実施、受診勧奨、陽性者のフォローアップ等は健康増進法により、市町村の業務とされている。
- 肝がん死亡率が全国に比べ高く、かつ、ウイルス検査の陽性者の割合も高いと言われる本県では、市町村のみならず、県においても様々な肝炎対策を実施している。
- 令和4年度は令和3年度の肝炎・肝がん関連事業を継続実施する。
- 肝炎医療コーディネーター養成研修会も継続実施する。

（2）75歳未満がん年齢調整死亡率について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

国立がん研究センターが令和2年の75歳未満がん年齢調整死亡率を公表した。鳥取県の男女計の死亡率は、令和2年は68.6（前年79.7）で、前年の44位から23位に改善。女性の死亡率は48.4（前年61.3）で前年43位から41位に改善。

肝臓がんの死亡率4.5（前年4.0）で、全国39位（前年25位）であった。

（3）令和4年度県予算事業について：

坂本県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

新規事業として、がん予防でがん検診推進パートナー企業のうち、検診機関が出張対応を行わない従業員数が30人未満の小規模事業所等を対象とした県営職域がん出張検診の予算要求をしている。

協議事項

1. 鳥取県肝炎ウイルス検診・肝臓がん検診等実施要領の一部改正について

令和3年度の夏部会において、妊婦健康診査における肝炎ウイルス検査陽性者について、検査結果を把握し、フォロー対象者とする旨、協議した。これに伴い、「鳥取県肝炎ウイルス検診・肝臓がん検診等実施要領」を一部改正することとした。

〈改正点〉

実施要領 9精密検査事後管理に「母子保健法に基づいて実施する妊婦健康診査における肝炎ウイルス検査陽性者」を追加する。

令和4年2月10日に開催された鳥取県母子保健対策協議会母子保健対策専門委員会において、妊婦健診でHCV抗体検査陽性だった場合、核酸増幅検査まで実施した上で、精密検査機関へ紹介すべきかとの疑義があった。また、HBs抗体検査陽性だった場合は、どうだろうかとの疑義もあった。

協議の上、以下の通りとなった。

1 HCV抗体陽性の場合、核酸増幅検査まで実施すべきか。

→（回答）産婦人科で核酸増幅まで実施可能であれば、実施してもらったほうがよいが、費用負担や、肝炎精密検査受診の手間を考慮した上で、受診者をご相談ください。

2 HBs抗原陽性の場合の受診時期について

→（回答）HBs抗原陽性だった場合、エコー検査が必須であり、早期の精密検査受診をお勧めします（妊娠中でもエコー検査は可能であ

り、出産前の受診のほうが容易と思われる)。

2. 肝炎ウイルス陽性者の定期検査について

令和2年度冬部会において、肝炎ウイルス陽性者が年2回の定期検査を受診することの重要性について協議し、肝臓がん検診精密検査医療機関、一般医療機関及び患者向け啓発チラシを作成、関係者へ配布した。このうち、患者向けチラシの内容について、一部修正することとした。

〈改正点〉

- ・肝炎ウイルスの感染を原因とする慢性肝炎、肝硬変及び肝がんの患者の方は、所得に応じて、定期検査費用の助成が受けられる場合があることを追記。

3. NBNC型肝臓がんについて

孝田委員長より、NBNC対策について報告及び研究の進め方について意見を伺った。

特定健康診査・後期高齢者健診からの非ウイルス性肝疾患拾い上げを行うにあたり、検査項目に

血小板がなく、FIB-4が計算できないことがあった。対策として、受診勧奨となった方へ事業説明書をお送りし、医療機関を受診された際に同意書の提出と検査を行うこととした。FIB-4の測定2.67以上に対して定期検査の受診勧奨。

2021年度日野郡・西伯郡での試験的検討を行った結果、対象者13,555人、特定健診受診者2,152人、生活習慣病受診勧奨者312人、FIB-4インデックス測定同意者60人だった。

課題としては、健診受診率が低い、同意率が低い、高リスク患者が真に高リスクであるかの確定診断が必要、精査の基準を作るべきか、役場・保健師への負担が大きい、高リスク患者が次年度改善した場合も定期検査継続とするか、が挙げられる。

医療機関へお願いする定期検査結果報告書の併存症の記載部分は、あまり詳細にすると煩雑になるので、提示された資料のままとすることとした。

4. 肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会について

令和4年度は、東部地区で開催予定とする。

肝臓がん検診従事者講習会及び肝臓がん検診症例研究会

日 時 令和4年2月19日(土)
午後4時～午後5時25分

開催方法 ハイブリッド開催(現地参加+オンライン参加)

- ①現地参加会場／倉吉未来中心セミナールーム3 倉吉市駄経寺町212-5
- ②オンライン参加(Zoomミーティング)
ハイブリッド開催とし、倉吉未来中心をメイン会場とし、Web会議システム「Zoom」を使用しライブ配信をした。

出席者 119名
(医師：115名、検査技師：1名、保健師・その他：3名)(倉吉未来中心：29名、オンライン参加：90名)

岡田克夫先生の司会により進行。

講 演

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会委員長 孝田雅彦先生の座長により、香川大学医学部肝・胆・膵内科学先端医療学 小野正文先生による「慢性肝炎および肝臓の診断と治療について」の講演があった。

症例検討

三好謙一先生の進行により、鳥取市立病院 谷口英明先生、鳥取大学医学部附属病院 池田 傑先生から症例報告をしていただき、検討を行った。